

科目名	密教史概説A							学 期	前期
副 題	インド・チベット密教史				授業方法	講義	担当者	徳重弘志	
ナンバリング	M2-01-056	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

真言密教は、弘法大師による独自の思想も盛り込まれてはいるが、その思想や儀礼の多くはインドの伝統を受け継いでいる。そのため、真言宗について深く理解するためには、インドにおける密教の歴史を把握する必要がある。さらに、日本密教の独自性を理解するためには、比較対象としてチベット密教を知ることも重要である。この授業は、学生がインドやチベットにおける密教の歴史を学ぶことによって、密教史全体における日本密教の位置づけを理解することを目的とする。

授業の到達目標

・初期仏教や大乘仏教に対する密教の特色を理解し、他者に説明できるようになる。 ・インドやチベットにおける密教經典の分類法を理解し、他者に説明できるようになる。 ・インドやチベットにおける密教史の大まかな流れを理解し、他者に説明できるようになる。

授業計画

1. イントロダクション（授業の全体像の説明と、予習・復習の方法についての指導）
2. インドにおける仏教の歴史（1）：初期仏教
3. インドにおける仏教の歴史（2）：部派仏教・大乘仏教
4. インド初期密教（1）：密教の萌芽
5. インド初期密教（2）：密教の形成期
6. インド初期密教（3）：『大日経』の先行經典
7. インド中期密教（1）：『大日経』
8. インド中期密教（2）：『理趣経』・『理趣広経』
9. インド中期密教（3）：『初会金剛頂経』
10. インド後期密教（1）：父タントラ
11. インド後期密教（2）：母タントラ・不二タントラ
12. チベットの密教（1）：前伝仏教期
13. チベットの密教（2）：後伝仏教期
14. チベットの密教（3）：宗派の概説
15. チベットの密教（4）：近代の仏教

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、要点を把握しておくこと（60分）。 ・授業後に毎回宿題を課すので、次回までに小レポートとして提出すること（120分）。

テキスト

・田中公明『インド密教史』、春秋社、2022年（書店で購入） ・杉木恒彦、On the Chronology of the Buddhist Tantras、2022年（論文のため、コピーを配布する）

参考書・参考資料等

・高橋尚夫 他編『初期密教—思想・信仰・文化—』、春秋社、2013年 ・高橋尚夫 他編『空海とインド中期密教』、春秋社、2016年 ・松長有慶 編『インド後期密教』（上・下）、春秋社、2005・2006年

学生に対する評価

レポート（35%）、毎回の授業で課す小レポート（45%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 初期仏教、大乘仏教、密教の関係を理解できている。
 (B) インドやチベットにおける密教經典の分類法を理解できている。
 (A) 主要な密教經典の特徴を理解できている。
 (S) インド・チベット密教史の流れを包括的に理解できている。

課題に対するフィードバックの方法

・質問や意見に対しては、毎回の授業内でフィードバックを行う。 ・提出された小レポートに関しては、次回の授業において解説を行う。

その他

・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・遅刻3回で欠席1回とみなす。 ・調査学習を取り入れた科目である。